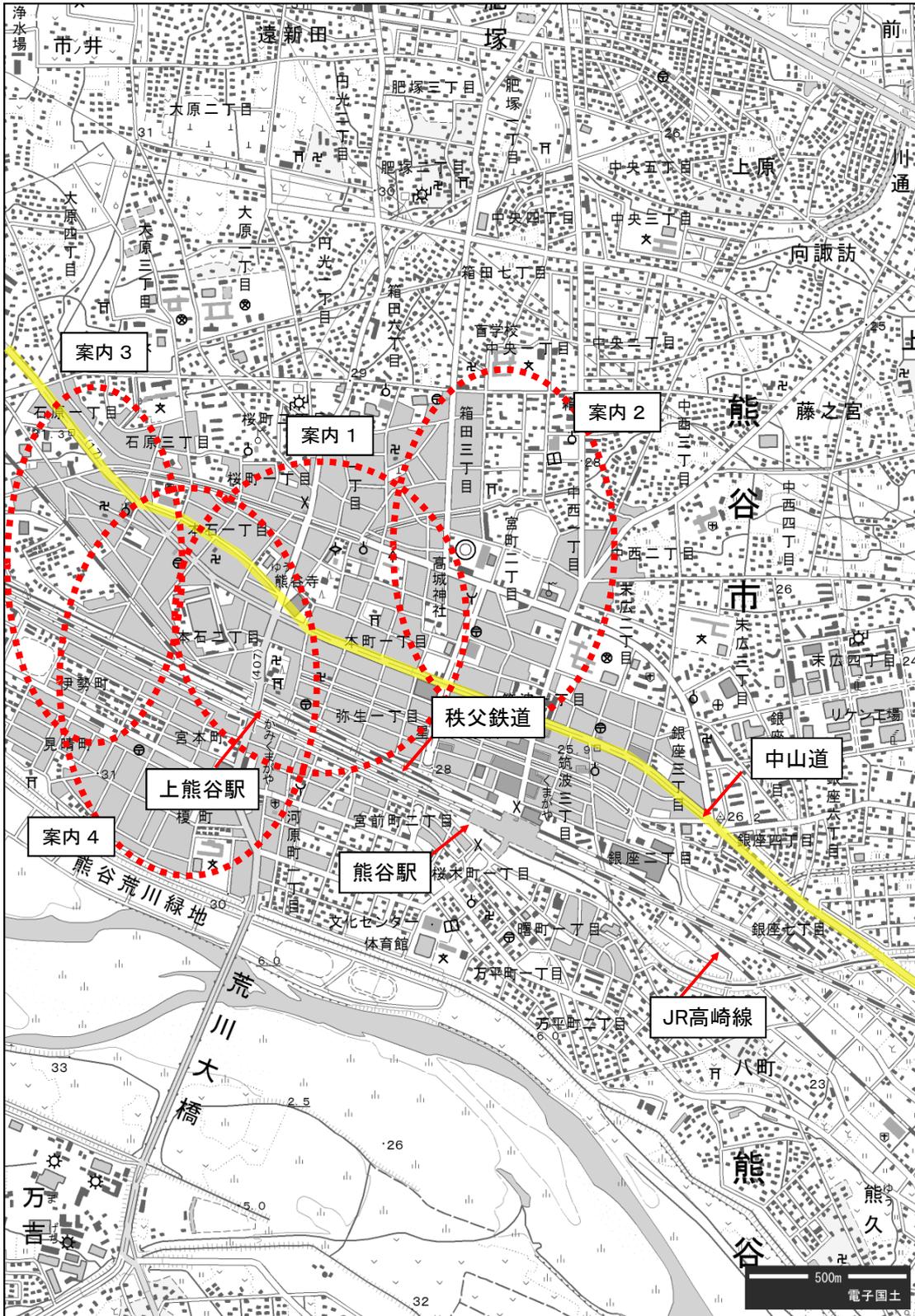


熊谷



案内図

調査範囲

熊谷



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

熊谷



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

熊谷



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

熊谷

熊谷市指定文化財星溪園



中山道で八番目の熊谷宿は大きな宿場町であった。北部を利根川、中央部を荒川の清流が流れ、恵まれた肥沃な土壌と自然条件から豊かな農地を授かると共に、江戸時代から商業が盛んで、現在も県内有数の商業都市でもある。また、昭和30年代から工場の誘致が盛んに行われたことから、工業の面でも発展が見られ、産業のバランスの取れた都市となっている。県内唯一の戦災指定都市で、終戦前夜の被爆は周知の事実である。

(写真は熊谷市鎌倉町付近)

<p>1 ポケットパーク</p>	<p>2 17号国道無電線化</p>	<p>3 高札場跡</p>
<p>さいたま博通りを北に向かう途中の三叉路に一本の大きな樺がある。</p>	<p>かつてはアーケードがあった。電線を地下に通したため、遮るものもなくなった空は広い。</p>	<p>高札とは掟、条目、禁令などを板に書いた掲示板であり、この場所に掲示されていた。現在高札は、本陣であった竹井家に14枚残っている。</p>
<p>4 本陣跡</p>	<p>5 高城神社参道</p>	<p>6 -1 高城神社 御神木</p>
<p>諸大名、公家などのための特別な旅館が「本陣」。熊谷本陣は規模、構造共に全国屈指のものだった。</p>	<p>縁結び、安産の神様。熊谷のみならず、大里地域の総鎮守。6月に行われる胎内くぐりでも有名。</p>	<p>樹齢800年以上といわれる樺の御神木。</p>

6 -2 高城神社 常夜灯	7 千形神社	8 陣屋跡
		
<p>青銅製の常夜灯は、天宝12年に150人ほどの紺屋により奉納されたもの。</p>	<p>熊谷直実によって建立されたとも伝えられる古社。</p>	<p>忍藩に属していた当時、町方事務を取り仕切るための出張所。このあたりを陣屋町と呼ぶ人もいる。</p>
9 長屋門	10 聖パウロ教会	11 熊谷寺
		
<p>立派な長屋門がある。長屋門の隣には、夏目漱石の小説「坊ちゃん」のモデルと言われる教師の住居跡がある。</p>	<p>大正ロマンを感じさせる礼拝堂は、大正8年建立。 総レンガ造りの教会。</p>	<p>熊谷寺は、出家後の熊谷直実が蓮生法師として往生した場所であることから、山号を蓮生山と言う。参拝は、要予約。</p>
12 竹藪のある裏路地	13 奴稻荷神社	14 旧中山道跡碑
		
<p>熊谷寺裏手の堀。 青々とした竹林が美しい。</p>	<p>鎌倉時代に建立され、子育ての神・商売繁盛の神として広く知られている。駅からほど近い街中にありながら、ひっそりとした木漏れ日に包まれたお社は、時間を忘れさせる。これからも大切に守ってゆきたい景色である。</p>	<p>デパートの国道側出入口前にある「旧中山道跡」の碑。 その横には宮沢賢治が熊谷を訪れた時に詠んだ歌の碑がある。 戦後途切れてしまった中山道上にデパートができた。</p>

15	旧中山道跡碑	16	一番街三叉路	17	松厳寺
	<p>デパートの中の中山道を通って西入口から外に出ると、ここにも「旧中山道跡」碑が立てられている。</p>		<p>中山道は右側の道で、現在は一番街通りとして商店が建ち並ぶ。</p>		<p>ゆく年くる年の除夜の鐘を市民に撞かせてくれるお寺。</p>
18	片倉シルク	19	店舗	20	八坂神社 本殿
	<p>製糸工場であった頃の繭倉庫を利用した記念館。2007年11月、近代化産業遺産に認定。</p>		<p>レトロな景観の自転車屋さん。地元の人文化町通りと呼んでいる。</p>		<p>関東最大の祇園祭といわれる「うちわ祭り」はこの神社のお祭りで、市内を巡る神輿の出発点でもある。祭りに由来する石碑や、清々しい境内は、小さいながらも大切にされている。</p>
21	正一位宇佐稲荷神社	22	蔵	23	星溪園
	<p>八坂神社のお向かいの稲荷神社。朱色がきれい。</p>		<p>17号国道と本町通りの間の裏通りで見かけたコンクリートブロック積みの蔵。</p>		<p>熊谷市指定文化財。熊谷の発展に尽力した竹井澹如翁によって、慶応年間から明治初年にかけて造られた星溪園。清らかな水が湧き出る『玉の池』を中心にした回遊式庭園で、三棟の数寄屋建築は格調高く静かな佇まい。</p>

	<p>25 かめの道</p> 	<p>26 線路沿いの丘</p> 
	<p>二匹の亀がお出迎えしてくれるかめの道。 昭和58年に廃止された東武鉄道熊谷線の敷地跡に作られた公園。 熊谷線が〈かめ号〉の名称で親しまれていたことからこの名前になった。</p>	<p>かめの道をずっと歩いてゆくと小さな丘が現れる。かつて熊谷線の高崎線と交差していた所に築堤が作られており、その名残である。 見晴らしの良い丘は散歩に最適。線路を見下ろして、目を凝らせば向こうの丘に〈クマガヤ〉の文字が見える。</p>
<p>27 星川</p> 	<p>28 熊谷女子高等学校</p> 	<p>29 箱田神社</p> 
<p>熊谷の中心市街地を流れる星川は古くから市民の憩いの場として親しまれている。 星溪園の『玉の池』から湧き出る清流が注ぐ水面を、時折魚影が通り過ぎる。</p>	<p>第二次世界大戦終戦前夜の熊谷大空襲により、市街地の三分の二が消失した。 それでも焼け残った、レンガ造りの当時の女子高の北門。</p>	<p>樹齢の高い木々に囲まれた、静かで涼しい居心地のいい神社。</p>
<p>30 用水路のある風景</p> 	<p>31 花街の名残り</p> 	<p>32 門塀</p> 
<p>市役所のほど近くの住宅地に用水路が流れる。フタもガードレールもなく、所狭しと住居が立ち並ぶ。各々、玄関までは用水路に架かった小さな橋を渡っての出入りをする。その分、閉鎖的な中にも情緒深い光景を醸し出す。近年、流れる水が澄んできています。</p>	<p>大正時代の私娼街。モデルは吉原仲之町でこの通りに妓楼が建ち並んでいたという。ほんの百数十メートルのひと区画だけ急に道路幅が3倍になっている。それらしき建築物はもはや1、2軒。</p>	<p>千形神社から熊谷寺へ向かう細い道、存在感のある門構えのある住宅。 この重量感のある門塀は、それだけでいつでも堂々と出迎えてくれることであろう。</p>

33	熊谷寺山門		
			
<p>熊谷直実ゆかりの寺、熊谷寺の山門。このほど修復工事が終了し塗装が改まっている。</p>			